

危機管理連絡会議

日時：平成 29 年 11 月 29 日（水）10:00～

場所：県庁 4 階 405 会議室

協議事項

- ・ 北朝鮮による弾道ミサイルの発射について

連絡

発出時間	送達確認	処理者
7:10	要(一斉FAX)	森山

事務連絡

平成29年11月29日

各都道府県防災・危機管理担当部局 御中

消防庁第1次情報連絡室

北朝鮮による弾道ミサイル発射について（第4報）

標記に関して、別添のとおり、防衛省より「お知らせ」がありましたので情報提供します。

本件について、新たな情報があった場合は連絡します。

なお、貴都道府県内の市町村に対しても、この旨周知願います。

<送信枚数>

本紙を含む 2 枚

<連絡先> 消防庁第1次情報連絡室

電話 03-5253-7551

FAX 03-5253-7543

消防庁宿日直者（夜間・休日）

電話 03-5253-7777

FAX 03-5253-7553

(お知らせ)

平成29年11月29日

防 衛 省

1. 北朝鮮は、本日午前3時18分頃、北朝鮮西岸の平城（ピョンソン）付近から1発の弾道ミサイルを東方向に発射した模様です。詳細については現在分析中ですが、発射された弾道ミサイルは、約53分飛翔し、午前4時11分頃、青森県西方約250kmの日本海（我が国の排他的経済水域（EEZ）内）に落下したものと推定されます。飛翔距離は約1,000km、また最高高度は4,000kmを大きく超えると推定されます。
2. これを受け、防衛大臣は「引き続き、情報収集・警戒監視に万全を期せ」との指示を出しました。また小野寺防衛大臣が防衛省内において関係幹部会議を開催したほか、国家安全保障会議（四大臣会合）に出席し、情報の集約及び対応について協議するなど、対応に万全を期しているところです。
3. 防衛省・自衛隊としては、引き続き、情報の収集・分析や警戒監視等に全力をあげるとともに、今後追加して公表すべき情報を入手した場合には、速やかに発表することとします。

北朝鮮による弾道ミサイルの発射事例(2017年)

年	月日	概要
2017年 (平成29年)	2月12日 ①	午前7時55分ごろ、北西部の平安北道から東海に向け弾道ミサイル1発を発射した。飛行距離は500キロを超えると推定される。中距離弾道ミサイル「ノドン」よりも「ムスダン」の改良型である可能性が高い。
	3月6日 ②	午前7時36分ごろ、北西部の平安北道・東倉里(トンチャリ)付近から日本海に向け、新型の中距離弾道ミサイル(IRBM)を4発発射した。ミサイルは約1,000キロ飛行し、3発が日本のEEZ内に落下(3回目)。
	3月22日 ③	東部の江原道・元山の飛行場付近からミサイル1発を発射したが、正常に飛行せず失敗した。このミサイルが移動式発射台から放たれて数秒後に空中で爆発したと推定しているという。失敗したミサイルは射程3,000キロ以上の「ムスダン」改良型とみられる。
	4月5日 ④	午前6時42分ごろ、東部の咸鏡南道・新浦付近から東海に向けて未詳の弾道ミサイル1発を発射。飛距離は約60キロ。中長距離弾道ミサイル「北極星2」の呼称)系列と推定している。
	4月16日 ⑤	午前6時21分頃、(北東部)咸鏡南道・新浦付近から弾道ミサイル1発を発射したが、発射直後に爆発した。
	4月29日 ⑥	午前5時30分頃、(西部)平安南道・北蔵付近から弾道ミサイル1発を発射し、高度71キロまで達したが、数分後に空中で爆発した。
	5月14日 ⑦	午前5時28分頃、(北西部)亀城付近から弾道ミサイル1発を発射し、30分で800キロ飛行し、日本海に落下した。高度は過去最高の2,100キロまで達し、新型ミサイル「火星12」と見られる。
	5月21日 ⑧	午後4時59分頃、(西部)北倉付近から弾道ミサイル1発を東方に発射。500キロ飛行し、日本の排他的経済水域外の日本海上に落下した。新型の中距離ミサイルと見られる。
	5月29日 ⑨	午前5時39分頃、北朝鮮の元山(ウオンサン)付近から弾道ミサイル1発を東方に発射。400キロ飛行し、日本のEEZ内の日本海上に落下(4回目)。
	6月8日 ⑩	午前6時18分頃、(東部)元山付近から短距離の地对艦巡航ミサイル数発を北東方向に発射し、200キロ飛行し日本海に落下した。
	7月4日 ⑪	午前9時39分頃、平安北道亀城付近から弾道ミサイル1発を発射。39分間に933キロ飛行、高度は2,802キロに達した。ミサイルは秋田県男鹿半島から300キロのEEZ内に落下(5回目)。北朝鮮の発表によると、ミサイルは大陸間弾道ミサイル(ICBM)とのこと。
	7月28日 ⑫	午後11時42分頃、北朝鮮内陸部の舞坪里(ムピョンニ)付近から、弾道ミサイル1発を北東方向に発射。47分間に998キロ飛翔、高度は3,724.9キロに達した。ミサイルは北海道積丹半島の西約200kmの日本のEEZ内に落下(6回目)。北朝鮮は、ICBM「火星14」の2回目の試射に成功と発表。

年	月日	概要
2017年 (平成29年)	8月26日 ⑬	午前6時49分から午前7時19分までの30分間に、北朝鮮東部のキツェリョンから日本海に向けて、短距離弾道ミサイル3発を発射した。北東方向に250kmあまり飛行して、北朝鮮北東部の沖合に落下した。このうち2発目は、発射直後に爆発したとみられる。
	8月29日 ⑭	午前5時58分ごろ、北朝鮮西岸から北東に向かってミサイル1発を発射し、午前6時7分ごろ、北海道地方から太平洋へ通過した。ミサイルは3つに分離し、3つとも午前6時12分頃、襟裳岬東方の東約1,180kmの太平洋上に落下。破壊措置の実施は無し。
	9月3日 【核実験】 ⑯	3日午後0時31分頃(日本時間)、気象庁が北朝鮮付近を震源とする地震波を探知。核実験の場所は、北朝鮮北東部ハムギョン北道キルジュ郡ブンゲリ(豊溪里)周辺。北朝鮮は同日午後3時から、ICBM搭載用水爆実験に成功と発表。爆発規模は過去最大のM6.1。
	9月15日 ⑮	午前6時57分ごろ、北朝鮮西岸から東に向けてミサイル1発を発射。午前7時6分ごろ、北海道地方の日本領域を抜け、午前7時16分頃、襟裳岬東方の東約2,000kmの太平洋上に着水。破壊措置の実施は無し。
	11月29日 ⑰	午前3時18分ごろ、北朝鮮西岸の平城(ピョンソン)付近から東方向にミサイル1発を発射。 約53分飛翔し、午前4時11分ごろ、青森県西方約250キロの日本海(日本のEEZ内)に落下。 飛翔距離は1000キロ、最高高度は4000キロを超えると推定。

国際情勢(11月22日～11月28日)

以下は、国民保護室の担当者が執務の資料とするため公刊資料を要約、作成したものである。

【朝鮮半島】

「発射準備か 弾道ミサイル、政府警戒」

北朝鮮による弾道ミサイル発射準備をうかがわせる電波信号が捕捉され、日本政府が警戒を強めていることが27日、分かった。ミサイルの種類などは特定できていない模様だが関係者は「数日内の発射もあり得る」と述べた。ただ、過去には信号が捕捉されたものの発射に至らなかったケースがあり、別の日本政府関係者は「米国などの出方を探っている可能性もある」と指摘した。一方、北朝鮮がこれまで日本海にしか発射したことのないICBM(大陸間弾道ミサイル)などを使って、年内にもICBMの太平洋発射に踏み切り、米本土への攻撃能力を誇示するとの見方も出ている。

「米韓空軍の共同訓練 ステルス参加し来月は過去最大規模に」

韓国に駐留するアメリカ軍は24日、来月4日から5日間にわたって、ソウル近郊の空軍基地を拠点に米韓の空軍による定例の共同訓練を実施すると発表した。今月7日にはアメリカのトランプ大統領と韓国の文在寅(ムン・ジェイン)大統領が会談し、北朝鮮に対する軍事的な圧力を強化するため朝鮮半島周辺にこれまで以上の戦略兵器を展開していくことで合意しており、今回の共同訓練もその一環と見られてる。

「北朝鮮「重大な挑発」米のテロ支援国家再指定に反発」

アメリカのトランプ大統領は20日、核・ミサイル開発などをめぐって国際的な批判が高まる北朝鮮を、9年ぶりにテロ支援国家に再指定したことを発表し、北朝鮮への圧力を一段と強めていく立場を示した。これについて北朝鮮外務省は22日、報道官談話を発表し、「『テロ支援国』のレッテルを貼り付けたことは、尊厳高いわが国に対する重大な挑発だ」と反発した。その上で、「われわれの核は、アメリカの敵視政策と核の脅威に対処する抑止力だ。アメリカの敵対行為が続くかぎりわれわれの抑止力は、ますます強化される」と主張し、核・ミサイル開発を一層加速させる姿勢を強調した。さらに談話では、「わが軍隊と人民は、激しい憤りを禁じ得ず、アメリカといつ、いかなる方法でもけりをつけなければならないという意志を、さらに強固にしている」として、トランプ政権への対決姿勢を改めて鮮明にした。

「北朝鮮兵士亡命 休戦協定違反で再発防止協議求める」

韓国と北朝鮮を隔てる軍事境界線にある板門店(パンムンジョム)で、今月13日、北朝鮮軍の兵士が韓国側に亡命した事件で、国連軍司令部は22日、監視カメラの映像を公開するとともに、北朝鮮側が朝鮮戦争の休戦協定に違反したとして、再発防止のための協議を行うことを求めた。これに対し北朝鮮は4年前に休戦協定の白紙化を一方向的に宣言した経緯もあり、協議に応じるかは不透明である。

【テロ】

「エジプト300人超死亡テロ事件 礼拝中のイスラム教徒標的に衝撃」

エジプト東部のシナイ半島で24日、礼拝施設モスクが武装グループに襲撃され、子ども27人を含む305人が死亡し、エジプトで過去最大規模のテロ事件となった。犯行声明は出されていないが、武装グループが過激派組織ISの黒い旗を掲げていたことから、ISの支部を名乗る組織が引き起こした疑いが持たれており、治安当局が掃討作戦を続けている。

